

1 日時

令和4年10月3日（月）午後2時24分から午後3時35分

2 場所

愛知県庁本庁舎 6階 正庁

3 出席者

会長及び27名の委員

説明のために出席した者 農林水産推進監始め18名（他、オンライン参加17名）

4 議事の概要

（1）開会

皆様大変お待たせいたしました。ただいまから令和4年度愛知県食育推進会議を開催させていただきます。

私は司会進行役を務めさせていただきます、愛知県農業水産局農政部長の武田でございます。どうぞよろしくお願いたします。

それでは初めに、愛知県食育推進会議の会長であります、大村知事から挨拶を申し上げます。

（2）知事挨拶

皆さんこんにちは。愛知県知事の大村秀章です。

委員の皆様にはお忙しい中、先ほどの食育推進全国大会第4回会議に続きまして、ただいまから令和4年度愛知県食育推進会議ということで、引き続きご出席をいただき、誠にありがとうございます。

日頃から県政推進に格別のご支援、ご協力をいただいております、心から感謝申し上げます。

さて、本県では県民一人一人が食の大切さを理解し、主体的に食育に取り組むための指針として、2021年3月に第4次食育推進計画「あいち食育いきいきプラン2025」を作成しました。

この計画に基づいて委員の皆様方を中心に、市町村・団体・事業者などが、それぞれの役割の特性を生かし、様々に連携・協力しながら食育を支える取り組みを推進しているところでございます。

こうした中で6月に開催した「第17回食育推進全国大会 in あいち」を契機として、大学・団体・事業者の間で新たな連携が生まれて、大会後の様々な取組に繋がっていると伺っております。

本県といたしましても、大会のレガシーを引き継いで、取組を“SHIN化”、SHIN化というのは今回の全国大会でも使いましたが、アルファベットで「S・H・I・N」と表し、進むとか深めるとかの意味を、かけ合わせていくということで、実践力を高めていきたいと思っておりますので、今後皆様方のご支援を賜りますようによろしくお願い申し上げます。

さて、本日の会議では、「あいち食育いきいきレポート2022」、「あいち食育いきいきプラン2025」の推進につきまして、ご協議をいただきます。

ライフスタイルの多様化や、新型コロナウイルス感染症の影響による、新しい生活様式の対応など、食育を取り巻く状況が変化する中で、今後どのように食育を推進していくか、皆様からお話を伺えればと思っております。

限られた時間ではございますが、皆様方には忌憚のないご意見を賜りまして、実りのある会議となりますようお願いを申し上げます。開会のご挨拶とさせていただきます。

どうぞ今日はよろしく願いいたします。ありがとうございました。

(3) 委員の出席等

ありがとうございました。

なお、知事は公務の都合により、ここで退席させていただきます。

それでは初めに、お手元の愛知県食育推進会議委員名簿をご覧ください。

本日は、29名のうち、27名の方にご出席をいただいておりますこと、ご報告申し上げます。

委員の皆様は、今年5月1日に全員改選され、本来であれば、お一人ずつご紹介すべきところでございますが、時間の都合もございまして、出席者名簿をもってご紹介に代えさせていただきます。なお、委員の任期は2年間となっておりますのでよろしくお願いいたします。

また、本日の会議資料につきましては、次第の下に配付資料一覧を記載しておりますので、ご確認をお願いいたします。

なお、会議終了時刻は午後3時30分を予定しておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

それではここからは、愛知県食育推進会議運営要綱第2条の規定により、会長代理であります矢野農業水産局長に議事の進行をお願いいたします。

議長

それでは、私の方で、議事の進行をさせていただきます。

お手元の会議次第に従いまして、議事を進めさせていただきます。

本日ご協議いただきますのは、「あいち食育いきいきレポート2022(案)」について及び「あいち食育いきいきプラン2025」の推進についての2議題でございます。

(4) 議事録署名人の指名

なお、本日の会議録の署名についてでございますけれども、愛知県歯科医師会の渡邊委員と、愛知県農業協同組合中央会の加藤委員をお願いをしたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

(5) 議事

ア 議題(1)の「あいち食育いきいきレポート2022(案)」について

議題の(1)、「あいち食育いきいきレポート2022(案)」について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

資料1により説明。

議長

ただいま説明をいたしました内容につきまして、ご意見、ご質問のある方は挙手をお願いします。なお、ご指名をさせていただきますので、団体・組織名とお名前を述べてからご発言をお願いします。

いかがでしょうか。特に、ご意見等はございませんでしょうか。

特にご意見もございませんので、「あいち食育いきいきレポート2022」につきましては、原案のとおり、公表をさせていただきます。

イ 議題（2）の「あいち食育いきいきプラン2025」の推進について

次に、議題の（2）、「あいち食育いきいきプラン2025」の推進についてであります。

初めに資料の2に基づきまして、プランにおける数値目標の進捗状況につきまして、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

数値目標の進捗状況について、「あいち食育いきいきプラン2025」本冊、資料2及び参考資料により説明。

議長

続きまして、少し説明が続きますけれども、資料3に基づきまして、愛知県の担当課の方から、「あいち食育いきいきプラン2025」の県の主要な取組につきまして、それぞれ紹介をさせていただきます。

【事務局】

「あいち食育いきいきプラン2025」の県の主要な取組について資料3により説明。

議長

ただいま、県からの主な取組概要ということで説明をいたしました。

やはり今後の食育の推進につきましては、それぞれの団体の方でいろいろやられると思いますけれども、その取組というのは非常に重要なことということで、もしよろしければ、皆様の方からそれぞれの団体の取組についてご紹介をいただけたらな、ということでちょっと時間を取らせていただきたいと思います。いかがでございましょうか。

ご意見等ございますでしょうか。ご発言の際は団体名とお名前をお願いいたします。

【山本委員】

愛知県農業経営士協会の副会長であります山本と申します。仕事は西尾市で養豚業を営んでおります。

質問ですけれども、いいともあいち運動について、昔から名前は聞いて知っているのですが、県

産の農林水産物が、例えば、近くのスーパーにどれだけ売っているのか。僕は買い物行かないのでよくわからないんですけど、ここ女性の方が多いので、よく知ってみえると思うんですけど、「愛知県産」という文字がどれぐらい書いてあるかとかね。今の若い奥様方が、それを気にして買っているのだろうか、とか。

先日僕の息子の奥さんが買い物に行きました。冬瓜が4分の1サイズで売っていて、いろんなものを買うんで、カゴに入れて、会計をして帰ってきて、いざ調理をする時になって、「お義父さん、冬瓜って高いんだね」って言ったんですよ。「いくらだ」って聞いたら、2,900円もすると、そんなわけがないだろうということで、その冬瓜はスーパーに持って行って、結局ゼロが1個多かった表示間違いだったんですけども、それぐらいの感覚の若い奥様方もいらっしゃるわけです。

Aコープ・農協関係のスーパーだと、「愛知県産」とか、書いてみえると思うんですけども、普通のスーパーに、「これは愛知県産の食材だよ」とか、そういうPRをしているところがあるのかないのか。そういうことを県の方は調べているのか。

それから、これから県産のものを食べてもらおう、という中で、そういった取り組みがやれるのかどうか。そのあたりをお聞かせ願えればと思います。

議長

県への質問ということでございますので、事務局お願いします。

【事務局】

県産品を量販店等でどれぐらい扱われるか、といったお話をご質問いただいたところでございます。

実際に愛知県産品が、どれだけ量販店・スーパー等で扱っているか、ということについては、なかなか調べることは難しいんですけども、先ほど、いいともあいち運動ということで、愛知県産の地産地消の取組、愛知県産農林水産物を応援しよう、という取組でございますけども、これを進めているところでございます。

この中にはネットワーク会員ということで、1,800ほど、会員さんがおられます。

これは生産者・流通量販店等含めての数字でございますけれども、そういった方々に色々なご協力をいただいているところでございます。

特に量販店さんにご協力いただいているところもございまして、そういったところでは愛知県産品ということで、色々意識して販売をいただいているところかと思っております。

ただそれが県内全部でということは、なかなか難しいところでございますので、私たちといたしましては、そういう取組を徐々に進めて参りたいと思っております。

具体的には、先ほどご説明申し上げましたように、地産地消を、特に今年から積極的に進めて参りたいと思っております、この秋からキャンペーンを進めて参りたいと思っております。

これは県だけではなく、いいともあいちネットワーク会員も含めて、関係者のご理解をいただきまして、取組を進めて参りたいと存じます。

言葉だけでは難しい部分もございますので、今回につきましては、環境問題とあわせて、地産地消が環境問題、SDGsを含めて、「このような貢献をしているんだ」ということをわかりやすく、ご理解をいただきながら、その取組を実際に体験いただこう、というようなことを考えております。

今のパーセンテージがどれぐらいかというのは、なかなか難しいところがあるというふうに申し上げましたけども、ここで一般県民の方のアンケートの結果を少しご紹介申し上げます。

昨年度、県政世論調査ということで、県の調査をやらせていただいたんですけども、この中で、「愛知県産をできる限り優先して購入したい」とお答えいただいた方は、まだ13.3%という、若干低い数字でございます。

ただ、これをもう少し中身の分析をさせていただきますと、「国産品であれば価格判断をする」ということで、要は価格勝負、価格が安い方を買っていきたいというような方もお見えになります。

それから、「国産であれば味、鮮度といったもので判断したい」という方も30%ほどおります。

従いまして、こういった方々に対し、価格云々はわかりませんが、少なくとも味だとか新鮮だとか、そういったものを表に出せるような、ないしはそういうもののPRなども含めてですね、色々取組を進めて参りたいというふうに考えております。

以上でございます。

議長

山本委員、よろしかったでしょうか。

【山本委員】

大きい全国チェーン店みたいなスーパーはなかなか乗ってこないと思うんですけど、県内に拠点があるスーパーなら、「ある程度は県産のものを」という頭を持っているはずなんで、そういうところから攻めてもらって、やっぱり愛知県の農業はすごいので、いろいろ取組ができると思うので、ぜひ調べて、スーパーにも協力をしてもらって、進めていただければと思います。

ありがとうございます。

議長

はい、ありがとうございました。

なかなか数字的には難しいということでございますが、まず、実行するというので、進めて参りたいなと思っております。

今お話のありましたことも含めまして、最近の食に関する社会の動向という意味で、もしよろしければ中日新聞の市川委員さん、ご発言いただけたらと思うんですが、いかがでしょうか。

【市川委員】

中日新聞生活部の市川といいます。よろしくお願いたします。

ちょっと話は戻るんですが、先ほどの会議でありました食育推進全国大会、私も学生レシピコンテストの審査員の1人として参加させていただきました。

学生が腕によりをかけて作った料理ですので、おいしいのは当然なんですけれども、私の舌の貧困さなのか、語彙の貧困さなのか、感想をおいしいとしか言えなくて、非常に選ぶのに苦労しました。

先ほど鳥居さんが、産学連携のイベントを継続して行って欲しい、とおっしゃいましたけれども、私も完全に同意いたします。本当にそう思います。

大会では、地元の食材がこんなにたくさんあるんだ、ということに感動いたしましたし、それを生かしていかない手はないな、というふうに思います。

そういう意味では、日常的に県民が知る機会をもっと増やして欲しいというふうに思います。

それからもう1点、昨今の食料品の値上げに関してなんですけれども、これが地産地消や食育にどういう影響を与えるのか、というのを懸念しております。

まず食費の増加で苦勞している家庭が多い。従って、栄養が偏っていても、新鮮でなくても、いいんだと。これでいいんだというふうに思ってしまうんじゃないか、というふうに思います。

それから農家は農家で、肥料や燃料代の値上げが価格に転嫁できずにいる、というふうに言われています。

運搬コストとか、環境負荷が少ないという意味では「地産地消」というのは非常に、この時代にマッチしているんじゃないかなと思いますが、なかなか簡単に繋がっていかないと思いますので、やはりそのアイデアを、こういう場で、みんなで出していければいいんじゃないかなというふうに思います。

私の意見は以上です。

議長

はい、ありがとうございました。

前段の部分の学生レシピコンテストについては、鳥居委員からもですね、引き続き実施を、というようなことを知事にご要望されたということでございます。

今回につきましては、全国大会の中で行われたレシピコンテストでございますので、来年度以降、同じような形でというのはなかなか難しいものの、その精神といたしましうか、それは非常に重要なという意味で、どのような形になるかというのを、また皆さんと一緒に協議をしていきたいと思っておりますけれども、このレガシーをしっかりと引き継いでいきたいなというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それから今、市川委員の方から値上がりの問題、地産地消を非常に、緊急的に、というようなお話がございましたけれども、それぞれの立場で、今こそ地産地消をしっかりやっていくべきだというようなご意見があれば、それぞれの立場でご意見いただけたらなと思っておりますが、いかがでしょうか。

【加藤委員】

愛知県農協中央会の加藤でございます。

資料3の5ページのところに、「学校給食で地場産を」ということで今ご説明いただいたんですが、意見交換の中で、使用量が確保できないとか、規格サイズが合わないとか、価格が高いとか、こういうご指摘もありますけれども、量がそろわないというのは多分その地域のものにもよろうかと思うんですけども、特に価格の面では先ほどもご指摘ありましたように、原価が本当に上がっております。肥料等は購入もできないような状況に陥ってきております。そういった中で農業者が、収入はなくても作り続けろと言われても作れないんですね。

ご承知かもわかりませんが、農業人口はどんどん減っております、さらに今後また4割ほど半分ぐらいになってしまうということが見通されておいて、そういう中で我々は何を食べていくのか。地産地消って本当にいいことだと思っております、そういった場合、世界を見渡したり

他県の状況を見渡したりすると、例えばフランスのエガリム法、前回も意見が出ておったかもわかりませんが、生産費をしっかりとかがみたいいわゆる価格構成、こういったことを考えていかなないと、農業生産が続けられない、持続可能な農業とは何なのかと、こういったことが今問われておるわけでありませう。

そういった中で、適正な価格実現に、やはり消費者、特に「公」の組織ですね、例えば学校とか公の施設とか、それから企業の食堂とか、フランスのエガリム法を読んでおりますと、団体食堂という言葉が出てきます。まずそういうところから、適正価格を実現すべきだと、こういう取り組みはされておるわけでありまして、是非ともこういう学校給食は最たるところだと思いますので、そういった考え方をですねリードしていただけないかな、というふうに思っておりますので、また皆さん方のご理解のほど、よろしくお願ひしたいということでございます。

以上です。

議長

ありがとうございました。

農産物と学校給食という関係のご意見かなと思ひますけれども、今のご意見に対して、何かそれぞれの団体さんの、要は学校給食関係になろうかと思ひますけれども、何か現状の課題だとかがあれば、ご発言いただきたいと思ひますがいかがでしょうか。

特になければ、事務局の方で何かございませうでしょうか。

【事務局】

保健体育課でございます。

学校給食につきましてご質問いただきました。

委員ご指摘のように、学校給食というのは大変重要なものでございませう。

ただし、学校給食に用いる食材につきましては、大量に同じ規格のものを納入したりだとか、或いは給食費の方を徴収しておりますけど、その予算について限界があるというような、ある程度制約がございませう。

しかし、委員のお示しのようにですね、このような学校給食の場で、地産地消の活動をしていくということ大変重要なことだという認識をしておりますので、関係各所と調整をしながらですね、このようなことの取り組みを進めていきたいというふうに考えておるところでございませう。

議長

よろしかったでしょうか。

はい。

他にどなたか、はい、どうぞ。

【加納委員】

愛知教育大学の加納です。

ちょっと専門性からの情報提供と問題提起というか願ひをちょっとお話ししたいかと思ひますけれども。

農業体験学習等の目標数値とありますけれども、コロナに入ってからなかなか人と関わって、つまり

地域のJAの方だとか農家の方たちと関わってやるっていう学習がですね、コロナショック元年はかなり厳しかったと思うんですけども、特に高齢者の方が多かったので、昨年来ぐらいからはかなり、学校に地域の人を招いてっていうような実践が増えてきたのかなっていう感覚を持てます、私は。

で、例えば、小学校低学年の生活科っていう教科があるんですけども、それは大体2年間の間に、花か野菜を育てます。大体ね、2年生で野菜を育てます。

そういったときに、それは教科の必須科目なので、必ず育てることになっているので、そういったところに入り込んだりだとか、或いは総合的な学習の時間だとかそういった地域の方に取り組む実践とか、かなり増えてきてましたし、先ほど山本委員の話聞いていて愛知県産なのか、碧南産なのかってこだわった漁業の実践とかもありましたので、そういった授業とかがどんどん広まっているので、この数値はぜひ達成できるんじゃないのかなと思っておるのが一つと、もう一つは心の育みの部分で思っているのが、「1日最低1回は家族や友人と一緒に楽しく食事をする」という数値が、現在が68%で目標数値が70%なんですけども、なんでしょね、1日に1回食事が楽しいと思っている子たちが、70%を切っているっていうのは、かなり僕は今、すごく心が重いなあと思ってます。

一つは給食、先ほど給食の問題がありますけども、給食はほぼ毎日、学校に行っていれば食べているんですけども、これも皆さんご存知のように給食が楽しい時間じゃなくなってるんですよ、コロナに入って。つまり、静かに食べて、ちょっとしゃべっちゃったら先生に怒られちゃうだったか、或いはかなり変わってきて学校によっては、地域によっては食べた後マスクをしてお話だったらオッケーだぞっていうふうになってるんですけども、これまた社会が徐々に徐々にまた変わりつつありますので、これはまた教育委員会との連携になってるんですけども、この食で会食を楽しむっていうことも今後の取り組みの中に、この委員会の方針としてありますので、何らかの提言みたいなのを、逆に言えば、こちらの組織がですね引っ張ってやってもいいのではないのかなってことが、私の個人的な意見であります。

以上です。

議長

はい。

ありがとうございました。

ただ今の情報提供も含めてなんですけれども、何か事務局の方で、提言というお話がありましたけれども、何かございますか。

しっかりと検討して参りたいというそんな感じでしょうか。

貴重なご意見ということでしっかりと受けとめるということによろしいでしょうか。

はい。

ありがとうございました。

例えば、今のお話、加納先生のお話も受けてですね、どなたかご発言がありますでしょうか。現場をご存じの村松委員どうでしょうか。

【栗田委員代理（村松委員）】

まず、給食費の値上げについては6月下旬に開催された愛知県学校給食会の評議員会の方でも

話題になりまして、今後の給食費の値上げについての動向ということで、三河や県の小中学校長会給食委員会の情報交換から、値上がってる分は公費負担になっている市が多いと感じます。ほとんどの食材が値上がっていて、今、西尾市ですと、中学校の給食費は310円ですが、とてもその金額では、できないので、市が負担してくださっています。

それから先ほどの黙食は必ずしもマイナスばかりではなくて、黙食をすることによって今まで気づかなかった素材の味であるとか、子どもたちが味に敏感になりました。例えば、アーモンドがいっぱいついたホッキという魚のカリカリ揚げの美味しさに感激して、「この魚って何だろう」とメニューをしっかりと見るようになりました。そして「ホッキという魚には、このカリカリ揚げという調理法がぴったり」などと、夜、日記に書いて、次の日の朝に担任に持ってくるとかしています。なので、味とかメニューであるとか作り方であるとか、新しいことにも目が行くようになったなと思っています。市を挙げて地産地消も一生懸命にやってくださっているので、市長のスペシャルメニューを定期的に入れて、楽しませてくださっています。

あとは放送委員の子たちが、ディスクジョッキー等いろいろ企画して、放送の方で黙食中の子供たちを楽しませています。コロナ感染症防止のため、昔のようにおかわりが自由にできない状況ですので、ちょっと残滓が多くなってしまいう現状は、少し課題だと思っています。

少しずれてるかもしれませんが、「食育いきいきプラン2025」を読ませていただくと、乳幼児から高齢者まで、切れ目ない食育を進めていくとあります。小中学校においては、学習指導要領が平成29年に改訂され、食育の推進がこれまで以上に明確に位置づけられたので、栄養教諭、あるいは担任、給食担当の先生たちが、かなり頑張ってくれていて、食育は非常に活発に行われています。

「食育いきいきプラン2025」の概要版パンフレットの見開きページでも、学校時代は学習というところになってますよね。そこから学校を出た後に、次に実行に移していく、そのつながりが弱くなっていうことを、西尾市食育推進会議でも話題になっています。20代後半から30代その辺の食育がぐっと弱くなります。弱くなるのを強くしていくために、義務教育の中で何をやらなくてはいけないのかなと考えたときに、「あいち食育いきいきプラン」にも「自発的」とか「主体的」といった言葉がたくさん出てきます。つまり、食育を教え込みではなくて、子供たちに考えさせることで、自らの課題を自分の頭で考えながら学習を進めていく、自発的に主体的に動いていく子供を育てることが、学校を出た後に、栄養のバランスであるとか、地産地消であるとか等、自分から食育に関わっていきます。教え込みとか与えているばかりでは、そこは、卒業したら、そこでぷつぷつと切れてしまいます。つまり、食育の学び方を私たちは考えていかないと、次に繋がっていかないかなと思っています。

あと、「食育いきいきプラン」本冊の32ページに、いろんなどころの丸がついた実践がありますよね。やっぱり学校関係が多いですね。地域も市町村の行政が頑張ってくださり多いですが、職場のところは、丸が少ないですね。なかなか難しいところです。そうするとやっぱり主体性とか、自ら関わっていく、そんな子供たちを育てていくのが、何かポイントなのかなと個人的には思っております。

以上です。

議長

ありがとうございました。

20代から30代へ、しっかりと食育を伝えるということの必要性のお話をいただきましたけれども、これ、事務局として何か意見ございますでしょうか。

【事務局】

食育消費流通課です。

おっしゃられる通り、こういった若い世代の対応というのは、「食育いきいきプラン2020」の計画の評価の中でも、さらに啓発が必要としているところでございます。

委員がおっしゃられたとおりですけれども、そういった乳幼児期、少年、青年期からですね、食の知識を身につける、そういった取り組みを考えてこういったプランも取り組んでおるところでございますが、小中学校と比べますと微力ではございますが、例えば我々食育消費流通課で、先ほど少し触れましたけれども、調理技術ですとか、栄養面ですとか、そういったものを学んでいただけるようなシンポジウムですとか調理技術の調理体験、そういった催しも行っております。

そういったものは食育推進ボランティアさんを対象に、広めてもらうという趣旨もありますし、個人の方にも参加していただけるようにしておりますので、そういった部分で、少しずつではありますが取り組みとして、広げて参りたいなと思っております。

先生のおっしゃるように、子供の食習慣関係が大変取り組みが多いわけですが、親世代の方との繋がりというのも、深く影響受け合うところがあるかと思えます。そういったものが、副次的といいますか直接的といいますか、家族に波及していくことも、我々としては大いに期待しているところでございます。

少し内容が被るところもございますが、こういった職場ですとか家庭ですとか、若い世代への支援というものにつきましては、社会全体、地域全体で、そういった雰囲気を作られていくことが大切かなというところでございます。いろいろな機会をとらえながら、食育を支える取り組みとして、引き続き啓発、声かけ、そういったことに取り組みまして、それぞれ関係団体、関係者の方々、その場その場で配慮して取り組みもお願いできればなというところでございます。

以上です。

【武田委員】

愛知県経営者協会の武田と申します。

先ほど先生の方から、主体的な活動につなげることが大事ではないかというようなご意見があったかと思えます。それと少し関わるかもしれませんが、毎日の食事を誰が準備するのかという点についても、少し啓蒙活動を進めていっていただきたいというのが、私からのお願いでございます。

日本では、家事負担が女性に偏っているというような調査結果もあります。毎日の食事を、お母さんが作るだけではなくて、お父さんであったり、少し大きくなれば子供と一緒に手伝って作るということも、共働き世帯が増えていく中で、今後ますます必要になってくるのではないかなというふうに思っています。

家事は女性がするもの、ご飯はお母さんが作るものというような意識の変化への働きかけもぜひお願いしたいと思えます。

以上です。

議長

はい。ありがとうございました。

ただいまの意見について何か委員さんの中で、賛同される、あるいは、こういった考えっていうのが、もしあればお願いいたします。

【小池委員】

公募委員の小池と申します。よろしくお願ひいたします。

皆様がおっしゃるように、なかなか興味を持たない人たちもたくさんいると思います。それはなぜかといえば、正しく食を取ることによって、自分にとってどんな良い効果があるかというのがなかなか実感できないところにあると感じます。

愛知県は、これからスポーツのビッグイベント等もあるので、県全体、オール愛知で、スポーツを活用しながら、スポーツパフォーマンスが上がることによって食の大切さを実感をする人たちを作っていく取り組みを推進するのはどうでしょうか。

スポーツ切り口が今までアプローチできなかった健康な人に向けて、アプローチができるのではないかと思いますし、先ほど皆さんがおっしゃっていた、家族ぐるみだったり、職場ぐるみだったり、スポーツチームだったり、いろいろな関係性グループの中で、食の大切さを実感しあえると思います。

そして来るアジア大会では、愛知県から「スポーツと体づくりに食を大切にする」ことを発信していけば、レガシーとして残るはずです。加えて、愛知の県産品を地産地消も含めて、内外にPRできますし、健康寿命が伸びるような食生活というのも根付くのではないかなと感じます。

また、これを機会に食育ボランティアにも、お子さんがスポーツされているようなお母さんたちを呼び込んだり、スポーツしている人向けのセミナーを行ったり、Jリーグ・Bリーグなどプロスポーツ団体の巻き込みもできます。今プロスポーツチームは、SDGs活動で地域人々の健康な体をつくることを掲げているところも多く、食に前向きに取り組んでいます。

ぜひそういう方たちとも力を合わせて、一緒に県民の皆さんの健康ベースを上げていく、健康リーダーを作っていくにも、スポーツの切り口は非常に効果的ではないかと思います。

ご検討いただければ幸いです。

議長

ありがとうございました。

アジア大会を契機にということのお話でございましたが、何か事務局の方でございますでしょうか。

【事務局】

貴重なご意見ありがとうございました。

食育消費流通課としては、食育を含めてですけれども、スポーツイベントを通じて、愛知の農林水産業や地産地消を知っていただくことも非常に重要だというふうに思っております。

特に地産地消と絡めまして、愛知県の農林水産物をまずは県民の方に食べていただく、お越しいただくインバウンドの方、海外からお越しいただく方も含めて食べていただくというような取り組みをさせていただきたいと思っております。

食育に絡めましても、そういった観点も含めて様々な取り組みを進めて参りたいというふうに思っております。

アジア大会との絡みは、県の「食と緑の基本計画 2025」の中でも重要なプロジェクトですので、そういったことにも取り組んで参りたいと考えております。

議長

まだまだご意見があろうかと思いますが、予定している時間に近づいて参りましたので、どうか少しオーバーしてしまいましたので、こちら辺でこの意見交換は終了させていただきたいなと思います。

本当に貴重なご意見をありがとうございました。

今後とも皆様方と連携しながら、「あいち食育いきいきプラン 2025」の取り組みを推進して参りますのでご協力をお願いいたします。

ウ 議題（3）のその他について

議題（3）、その他につきまして事務局から何か発言ありますでしょうか。

【事務局】

今年度開催する「あいち食育いきいきシンポジウム」及び「調理講習会」について説明。

議長

以上で予定しておりました議事はすべて終了いたしました。委員の皆様方には、議事の進行にご協力いただき、まことにありがとうございました。

県といたしましては、「あいち食育いきいきプラン 2025」に基づきまして、今後も引き続き、食育の推進をして参りますので、皆様方におかれましては、それぞれのお立場から、食育を推進していただきますよう、お願いを申し上げます。

それでは進行を司会に返します。

（6）閉会

以上をもちまして、令和4年度愛知県食育推進会議を閉会させていただきます。

委員の皆様方には、お忙しい中、実行委員会から引き続き、長時間にわたってご出席をいただき、ありがとうございました。

交通安全に十分お気をつけてお帰りいただきますようお願いいたします。

どうもお疲れ様でございました。

以上

会議録署名者

（ 加 藤 委 員 ）

（ 渡 邊 委 員 ）